

【令和5年度 雲南市立掛合中学校 学校評価表】

学校教育目標「ふるさとを愛し 自他を大切にしながら たくましく未来を切り拓く生徒の育成」

学校経営の重点目標	評価計画			自己評価		改善計画	
	評価指標	肯定的評価の割合※ (回答数/対象者数)			結果分析(成果と課題)		改善案
		教職員 (11/12)	生徒 (39/54)	保護者 (38/49)			
【1】 未来を切り拓く確かな学力の育成～「生きる力を育む」	① 授業では、課題の解決に向けて、生徒が自分で考え、自分から取り組むことができている。	91%	95%	89%	○授業では、生徒たちは前向きに学習に取り組んでいる。 ▲主体性や意欲の面でさらなる改善の余地がある。	■1人1授業公開を引き続き実施し、教員が学び合う機会を設ける。 ■生徒が自らの学びを振り返り、次の学びにつなげていくことができるような指導・支援の工夫を検討する。	
	② 授業では、他者との対話を通して、生徒が自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	100%	87%	90%	○授業の中で話し合いの場面を多く取り入れている。 ▲話し合いによって自分の考えが深まったり広がったりしたことを実感できるような振り返りの場面の充実を図る必要がある。	■授業における話し合い活動、生徒会活動における対話活動や学級終礼時のスピーチ活動等を充実し、対話する力のさらなる伸張を図る。	
	③ 授業や家庭学習課題において、生徒1人1人に応じた学習指導が行われている。	67%	71%	83%	○ドリルアプリの活用場面が段々と増えている。 ○昼休みや放課後等も活用して個別対応している教科もある。 ▲生徒アンケートに「家庭学習課題が多い」との記載があった。	■ドリルアプリの効果的な活用方法を探る。 ■教科担任制のため、家庭学習課題量の教科間の調整は難しいが、何の課題が出ているのかを全教職員が把握できるような工夫を検討する。 ■個に応じた課題内容と量を検討していく。	
	④ 総合的な学習の時間等において、生徒が自分の生き方を考えたり、将来に必要な力を身につけたりするための学習が行われている。	91%	86%	91%	○総合的な学習の時間の取組をとおして身につけた力を、多くの生徒が実感している。 ▲他の調査で、将来の夢を持っていない生徒の割合が市や県の平均より高かった。	■引き続き、地域や企業の方から学ぶ機会を設けたり、キャリアパスポートを有効に活用したりして、学校で学んでいることと実生活や将来とのつながりを意識できるような指導・支援の在り方を検討する。 ■職業や自分の適性等を知る取組も適宜入れていく。	
	⑤ 授業や学習課題において、ICTや学校図書館を効果的に活用している。	73%	85%	83%	○生徒がICTを学習場面で使いこなせるようになってきた。 ▲図書館の活用や生徒の読書量に課題がある。	■今年度、図書館支援員の交代があったが、図書館の蔵書や環境が段々と充実している。生徒会活動とのタイアップも図りながら、図書館利用の増を図る。	
【2】 一人一人を大切にされた教育の推進～「居場所づくり」	⑥ 生徒会活動等において、生徒主体の「人との関わり・対話」を大切にされた取組が行われている。	91%	95%	100%	○生徒会朝礼の時間に、生徒主体の対話活動を行うことができた。 ○学校行事においては、自分たちで行事を創りあげていこうとする姿が多く見られた。	■引き続き生徒会活動が、生徒の帰属意識や所属感を高める場、達成感や絆を感じる場となるよう取組を進める。	
	⑦ 道徳の授業等を通して、多様性を認め、お互いを思いやり高め合う温かい人間関係づくりが行われている。	90%	92%	97%	○人権週間に合わせて人権集会を行い、人との接し方や相手を思いやることなどについて全校で考える機会を設けた。	■来年度、市の生徒指導施策の一つであるスリンプルプログラム(注)に取り組み、生徒同士の「かかわりの力」や自尊感情の向上を図る。 <small>(注)名城大学の曾山和彦教授が開発した「週1回の短時間グループアプローチ」と「各教科等のペア・グループワーク」の2つの柱からなる「かかわりの力」育成プログラム。</small>	
	⑧ 日々の会話や教育相談等を通して、生徒の思いや悩みに対してきめ細やかに対応している。	91%	89%	85%	○教育相談を毎学期、計画的に実施した。 ▲保護者アンケートに、「子どもの心の声にもう少し耳を傾けてほしい」といった内容の記載があった(1名)。	■生徒の様子について、今年度、職員の勤務開始時刻を早めて学年部で共有する時間を確保したり、職員会議で必ず情報共有したりしている。今後、さらに情報の質を高めるために、生徒の声を拾いあげる工夫や手立てを検討する。	
【3】 特別支援教育の充実～「自立と社会参加」	⑨ 生徒の発達の段階や特性に応じたきめ細やかな指導や支援が行われている。	73%	84%	89%	○不登校対応について、自学教室の運用等により、確かな成果が得られた。 ▲保護者アンケートに、「特別支援学級において個々の特性に応じた対応をしてほしい」といった内容の記載があった(1名)。	■個別の支援が必要な生徒の指導計画の共通理解を図るとともに、適宜見直しをする機会を設定する。	
	⑩ 生徒理解、小刻みな情報共有等、全教職員で取り組む教育支援体制ができている。	64%			○学びいききサポーターと支援員の配置により、支援体制の充実が図られた。 ▲全教職員で取り組むための支援方策の共通理解や情報の共有に不十分な点があった。	■いくつかの主任業務を抱えている職員がいるので、業務の分担を整理し、あらたな体制の整備を検討する。 ■情報共有および対応について協議する頻度を上げていく。	
	⑪ 保護者、行政・医療等の専門機関との連携が図られている。	100%			○生徒の様子に気になることがあった場合は、こまめに保護者連絡するようにしている。 ○市教育委員会や医療機関、特別支援学校等への相談を、必要に応じて行っている。	■引き続き、保護者や関係機関と連携した取組を進めていく。	

学校経営の重点目標	評価計画		自己評価			改善計画
	評価指標	肯定的評価の割合※ (回答数/対象者数)			結果分析(成果と課題)	改善案
		教職員 (11/12)	生徒 (39/54)	保護者 (38/49)		
【4】 信頼され、愛される学校づくり ～「家庭・地域に開かれた学校」	⑫ 地域の「ひと・もの・こと」を活用したふるさと教育や地域貢献活動が行われている。	100%	87%	94%	○地域の資源を活用したさまざまな教育活動を展開することができた。 ▲地域貢献活動として、総合的な学習の時間に活動したり、ごみゼロ大作戦を行ったりしているが、それらの継続性や発展性について検討する必要がある。	■総合的な学習の時間については、今年度の3年生の3年間の取組の成果をもとに、掛合中らしい取組の在り方を検討する。 ■ごみゼロ大作戦については、4校園の会合や学校運営協議会等でゼロベースでの見直しを提案し、活動のねらいや事業の主体を周知することをお願いする。 ■地域コーディネーターを中心として地域ボランティアを積極的に推奨していく。
	⑬ 学習公開や学校だより、学年だより、HPにより、生徒や学校の様子を発信している。	100%	89%	97%	○学校の様子を、できるだけ時機を逃さずお知らせするようにしている。	■開かれた学校を意識し、学校教育について情報発信していくとともに、保護者や地域のニーズに応えられるような情報を発信できるように心がける。
	⑭ 学校は、安心安全な教育環境が整備され、事故防止や災害防止への対策や指導が行われている。	100%	92%	95%	○毎月の職員による安全点検、毎学期の避難訓練を行っている。 ○気持ちよく学校生活を送ることができるよう、樹木の伐採・剪定や中庭の整備等を行った。また、修繕対応も迅速に行っている。 ▲生徒による安全点検の実施を検討したが、計画することができなかった。	■行政並びに保護者や地域の協力も得ながら、学校の安全管理に努める。 ■公益社団法人国土緑化推進機構の緑化貢献事業を活用するなどして、さらなる教育環境の整備に取り組む。
	⑮ 部活動や伝統芸能、その他各種大会・コンクール等、生徒が学校外で活躍できる機会がある。	100%	92%	94%	○各種の大会・コンクールで生徒が活躍し、好成績を収めることができた。 ▲複数の部活動に所属して活動している生徒の負担が大きいいという声がある。	■今後の部活動地域移行も見据えながら、常設部と季節部の在り方に関する規定の見直しを行う。 ■活動が過重な負担にならないように、自分で調整していくことができるような声掛けをしていく。

<自己評価全般>

- 保護者の肯定的な評価の割合が高い。学習公開日の保護者数もとても多く、保護者の学校理解が進んでいることがうかがえる。学校がしっかりと教育活動に取り組まれた成果だと思う。
- 教職員の評価が低い項目があるが、それは教職員の意識の高さであったり、一生懸命に取り組んでおられるからこそその厳しい評価ではないかとも考えられる。

<学習指導>

- 生徒がプレゼンテーションソフトを使って上手に発表したり、ホワイトボードソフトを使って意見交換したりするなど、ICTを使いこなしていると感じた。ICTを活用した授業もそうだが、道の駅でイベントをしたり、事業所へ訪問したり、市長さんに質問をしに市役所に行ったりと、教職員がやりたいことをやれる学校でも感じた。

<特別支援教育>

- 特別支援教育に関して小中の接続・連携の強化ができないか。(義務教育学校になり、特別支援教育を専門とする教員の相互乗り入れ等ができればよいが。)
- 特別な支援が必要な生徒への対応に退職教職員が活用できないか。
- 今年の体育祭のときに、特別支援学級の生徒が用具の準備等の仕事に生き生きと取り組んでいた。ちゃんと居場所があって、役割があるということが大切だと思う。

<総合的な学習の時間等の教育活動>

- 掛合の里のイベントは今後も続けてほしい。生徒数は少なくなるが、地域の「ひと・もの・こと」をうまく活用し、サポート体制を整えれば十分実施可能だと思う。
- 掛合の里のイベントはとても良いものだったが、生徒が疲れている様子も見られた。「地域課題に対して地域の方々の協力も得ながら解決策を考えていく」という目的・目標の部分で持続可能な内容・方法を考えてはどうか。
- 掛合の一番の特色である4校園連携の素地を生かして、まちおこし大作戦をごみゼロ大作戦に替わるような地域も巻き込んだ取組として続けていくことはできないか。子どもたちがみんなで話し合っ、学校運営協議会をあげて支援しながら続けていけるとよい。
- 学習したことを実社会で実践してみることが重要だと思う。交流センターもそこに関わっていくことはできるので、コーディネーターを通じて連携できるとよい。地域課題に向き合って学習したことを実践し、達成感を得ることができれば、将来の夢を持っていないという課題も打破できるのではないかな。

※肯定的評価の割合・・・アンケート調査の「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」「わからない」のうち、「わからない」を除いた「そう思う」「だいたいそう思う」の割合